

ゆるいもの

第拾壹卷

第貳號

フレール
ベル
會

第拾壹卷第貳號目次

- 保育研究の急務
- 注意の語
- 保姆の家庭訪問
- 小兒の傳染病に就て
- 保育法改良上の要點
- 野猪の話
- 保育の實際
- △保育座右の銘
- △山國の幼稚園
- △強い子弱い子
- 机邊だより
- △心理學の參考書に就て
- △ヒル氏の「幼稚園唱歌」
- 雜錄
- 新刊紹介

中川謙二郎	元良勇次郎	甲賀藤子	唐澤光德	和田實	平島權藏	宇式かん	勝村春枝	松田清	倉橋惣三
-------	-------	------	------	-----	------	------	------	-----	------

フレールベル會規則

- 第一條 本會ハ幼兒保育ノ改良發達ナシテ以テ目的トス
- 第二條 本會ハフレールベル會ト稱シ東京ニ置ク
- 第三條 會員タルラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒保育ニ篤志ナルモノニシテ會員ノ紹介ヲ經ベシ
- 第四條 會員ハ本會ノ經費トシテ一ヶ月金拾錢ヲ輸出スベシ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルモノハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ
- 第六條 本會ノ目的ヲ達センガ爲ニ左ノ事業ヲ行フ
 - 一 總會 毎年四月廿一日之ヲ開キ保育ニ關スル演說、談話、保育參考品幼兒成絨物展覽會ヲ報告 幹事ノ選舉等ヲナス
 - 一 但シ會日ハ會長ノ意見ニヨリ之ヲ變更スルコトアルベシ
 - 一 常會 毎年二月、六月、十月、十二月ノ第一土曜日之ヲ開キ
 - 一 保育ニ關スル演說、談話、協議、實驗等ヲナス
 - 一 組合會 會員中特ニ或ル事項ヲ研究セントスルモノヲ以テ組織ス
 - 一 但シ別ニ組合規約ヲ定メテ會長ノ承認ヲ經ルモノトス
- 第七條 雜誌發行 毎月一回雜誌ヲ刊行シテ之ヲ會員ニ配布ス
- 第七條 前項ノ外本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件
 - 一 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 - 會長 會務ヲ總理ス
 - 副會長 補佐シテ會務ヲ掌理ス
 - 幹事 若干人 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
 - 評議員 若干人 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ズ
 - 第八條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
 - 第九條 主幹、幹事、評議員ハ會長ノ特選トス
 - 第十條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ルルコトアルベシ
 - 第十一條 此規則ハ會員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

購讀の申込

(振替口座東京 一七三六六番)

- 本誌を購讀なされたき方は會費一ヶ月金十錢の割合で一ヶ月分をまとめて振替貯金へ御拂込下されば直に雜誌を發送致します。
- 一冊郵税共金拾一錢
- 六冊前金郵税共六拾錢
- 拾二冊同金壹圓貳拾錢
- 郵券代用一割増

會 告

來る十八日(第三土曜日)午後一時半より東京府女子師範學校附屬幼稚園に於て本會常會開會致し女子高等師範學校教授文學士小林照朗氏の「社會と兒童」と題する講演有之候間御操合せ御出席下され度候

電車は小石川傳通院前又は其先の同心町停留場(即ち女子師範前)にて下車なさる可く候

明治四十四年二月

フレール會

東京女子高等師範學校訓導藤五代策編

女子手工新教授法

二十五錢

女子手工新圖集

三十錢

小學校に課する女子の手工に關しては、現今我教育界の重要な問題の一となり居れり、されど未だ此等の意見に對して、深く研究せられたる著書の甚少きは、大に遺憾とする處なり、こゝに於てか弊店は、東京女子高等師範學校にありて、多年女子の手工に付き研鑽せられつゝある、藤先生に囑して本書を作れり、新教授法中には、女子手工教材の撰擇排列及取扱ひ上の諸注意を掲げ、新圖集には、十八種の細工目を、五百有餘の題圖に分ち、最鮮明なる圖面に確實なる寸法を附したり。殊に卑近なる細工、即ち粘土、折紙、麥稈、豆細工の如きは、幼稚園に於ける手技と濃密なる聯絡をとり、その稍高尚なるもの即ち造花、綿細工の如きは、精細なる圖解によりて保姆の方が直ちに、室内の裝飾品を製作することを待べし。されば本書は、小學校の手工教授の任に當れるの人は勿論、幼稚園に於ける保姆の方々の、好個の參考書たることは、深く信じて疑はざる處なり、乞ふ清覽あらんことを。

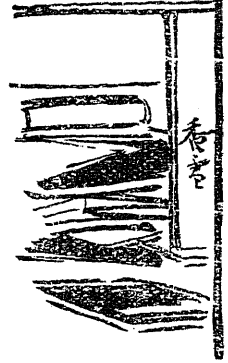
東京市京橋區南傳馬町二丁目五番地

目 黒 書 店

藤 五代策著

好評 嘖々 圖畫新教授法

第三版 代金八十五錢



第拾壹卷第二號

保育研究の急務

會長 中川謙二郎

左に録するは昨年十二月本會常會に於ける中川本會々長の演説の要點であります。但し標題は編者の隨意に撰びたるもので、文と共に其責任は全く編者にあります。

フレールベル會が諸君の御盡力に因つて段々と事業を遂行し來つて、雜誌も大分號を重ね得るに至つたことは、實に御同慶の限りであります。私も自ら會長の名を汚して居る以上は及ばずながら諸君の御研究を援けて、大に此保育事業に貢獻したいと思ふて居ります。夫れに就きまして、聊か感じて居る所を茲に御集りの方々に開陳して、大に皆様の御熟考を願ひたいと思ふのであります。元來フレールベル會は保育事業を研究して其結果を發表して居りますから、之を側面から見ますと云ふと丁度小學校の仕事の上に於て、中央に於ける或るオーソリティーある所の研究が、其發表と共に廣く傳布して、忽ちの中に全國に普及

されると同じ様に、保育に關することは本會研究の結果が忽ちの中に全國の幼稚園に其儘普及す可き筈である、そう云ふ様に考へられる方があるかも知れぬが、之は必ずしも然うとは思ふ。何となれば元來、小學校と云ふものは國民教育の最も重要なものでありますから、其の仕事も、或程度迄は、嚴重に極められたもので、中々動きが取れないものであるが、幼稚園に就いては、文部省は成る可く自由に放任して、今日も法令の上には嚴密の規定はありません。唯幼稚園の課目と云ふものが現在法令の上に極められて居ります、之も文部省は、嘗てフレールベル會が建議した處の意見によつて成る可く近い將來に於て此課目は廢めたいものであると云ふことを、當局の人が考へて居るやうに承はつて居ります。でありますから、幼稚園保育の態度は極めて廣い自由の範圍に置かれて居るものであります。是が小學校であると云ふと、どこかで宜しいと云ふことは、一

般に何處の小學校でも之を行ふ義務がある様に感じますけれども、幼稚園に至つては左様な窮屈は少しもない。假へば、成る程一般には善いことではあるが、我幼稚園は斯くの方針、斯くくの主義を以てするものであるから、他の幼稚園によくとも、自分の處では行ひ惡いと云ふことがあつて、決して差支はないのであります。蓋し保育の改良進歩を計ることに於ては、何處が後先と云はず、共に猛進してよい譯であつて、必らずしも人が行つて居るからとか、或はフレールベル會の研究の結果だからとて、各幼稚園一概に模倣する必要はないのである。即ち大なる自由を以て、大に保育の實際を選択して、眞實に其幼稚園の爲め、其幼稚園の幼兒の爲めに幸福なる可きものを取捨しなければならぬ筈であります。斯様にしたならば其處に各幼稚園の特色と云ふものが成り立つて、個別的教育の必要な保育事業は、一層完全に其必要を充たされるに相違ありません。早いお話が、

現在日本の幼稚園は幼児の満三歳から小学校に就學する迄の三年間、子供を預ることが普通であり、ますが、所に因つては、二年間でも宜しからうし、或は一年間でも宜しからう。時と場合に因つては所謂託兒所の様に、生れた當歳から預つても差支ないと思ふ。要するに幼稚園は時と所との事情に應じて最も適切なる施設經營をして、大に其幼稚園の特色を發揮する様にしなければなりません。併しながら銘々各特色を發揮し、自己獨特の法を保育のあらゆる方面に行ふと云ふことは、事に因ると頑迷固陋の弊に陥ることがある。之は己れの特色を發揮することに急なる人には往々にして見るところの缺點である。併し斯ういふのは研究的向上心を麻痺せしめ人の進歩發展を蔑視する傾向を持つもので、文明開化の賊であるから、吾人は一方には己が特色を維持するに努むると共に、亦此害毒に中らぬ様に心掛けねばならぬ。即ち一方には何もかも流行にかぶれ、人に真似ると云ふ様

なことのない様に戒めると共に眞面目の研究を進めて、他の長を捕つて我短を補ふの用意あることが必要である。即ち幼児保育の任に當るものは、大に研究して世の進歩に後れざらんことを努むると共に、一方に自家の特色を維持し、其長を失はざらんことを心掛けねばなりません。而して其研究的方面に對しては本會は大に活動しなければならぬ。勿論從來とても本會は種々なる研究をして居り、其結果は我保育界を利用して居ることは承知して居るが、併しまだ研究の餘地が澤山ある様に思ふ。此點に於て大に活躍の餘地がある。云ふ迄もなく中には研究しても直に實行の出来ないことは幾らもある可く、亦時には當局の權力を要する様なこともあるであらうが、夫れ等も單に研究することに於ては決して差支はない。而して其研究の結果は決して徒爾には終らぬ。先年本會の建議した規則改正案が大に當局者の參考となつて居ることは、前お話し申した様な譯で

あるから、本會は益々奮發して諸種の研究を發表す可きである。集會の如きも何にも規則に年四回とあるからとて五回開いてならぬことはない。大に研究會を起して研究調査をなす可きである。而して其結果は遠慮なく、夫れ々々適當な方法を以て之を發表して、以て全國の保育者の參考に供し、若しくは禮節を具へて當局の參考に資すると云ふ様にしても宜しい。兎に角本會の如きは、大に活動して研究に従事し、地方會員諸君は本會を利用して、大に其幼兒の爲めに奮勵せられんことを希望するものである。

○和俗童子訓の一節 (貝原益軒)

凡そ小兒の教は早くすべし、然るに凡俗の智なき人は、小兒を早く教ふれば氣碎けてあしと、只其心に任せて置くべし、後に智慧出來れば一人よくなるといふ、これ必ず愚なる人の言ふことなり、此言大なる妨なり、古人は小兒の始めて能く食し、能く言ふ時より早く教ふ遅く教ふれば悪しき事を久しく見聞きて、先入の言心の内に早く主となりて、後に善き事を教ふれども移らず、故に早く教ふれば入り易し常に善き事を見せしめ聞かして善き

事にそみ習はしむべし、おのづから善にすいみ易し、悪しき事も少しなる時早く戒むれば去り易し、惡長じては去り難し、古語に「兩葉不_レ去將_レ用_二斧柯_一」と云へるが如し、婦人及無學の俗人は小兒を愛する道を知らず、姑息のみにして只甘きものを多く食はせ、よききぬを腰かに着せ恣に育つるのみ其子を愛すると思へり、是人の子をそなふわざなる事を知らず、今の世其父禮の好みて其子の幼き時より躰を教へ和禮をならはす人は、必ず其子の作法よく立居ふるまひ、人に交り不束ならず、老に至るまで威儀よし、是れ其父早く教へし力なり、善を早く教へ行はしむるも、其のしるし亦斯の如くなるべし、

小兒の時紙鳶を上げ破魔弓を射、獨樂をまはし毬打の玉を打ち、手球をつき端午に旗人形を立つる、女子の羽子をつき、あまがつをいだし、雛をもてあそぶの類は、たゞ幼き時好めるはかなき戯にて、年長じて後は、必ずすたるものなれば心術に於て害なし、おほやう其好みに任すべし、されども數多く飾り過ごし、好み過さばいましむべし、ばくちに似たる遊はなさしむべからず、小兒の遊びを好むは常の情なり、道に害なき業ならば強て押へかゝめて其氣を屈せしむべからず、只後にすたらざる遊び好みは打任せ難し、



注意の語

文學博士 元良勇次郎

左の講話は本月十五日第十四回心理學通俗講話會に於ける元良博士の講演の極く大要を筆記したるものであります。博士及同會の承諾を得て茲に掲載致しますが、梗概の筆記の爲に其意味の徹底を缺く處あるは博士及讀者諸君に對して深謝せねばなりません。(編者)

(一) 注意とは何ぞや

(イ) 注意

(ロ) 非注意

注意とは精神作用が何等かの事物に傾注した時、其の事物に對する觀念の活動状態を名づくるのであります。これに反して更に精神上何等の觀念の活動の起つて居らない状態をば、名づけて非注意と云ふのであります。されば人が覺醒せるとき、の精神状態を考へて見れば、精神作用として大概何等かの事物に就いて働いて居るものと見なければならぬから、隨つて幾分の注意作用は働いて居

るものと云はなければならぬ。たゞ睡眠中の如きは、單に生理的に呼吸はして生きては居るけれども、精神的働きは先づないものと見なければならぬ。此れに依つて見るに覺醒時には何等かの注意作用は行はれて居るけれど、睡眠中には更に働いて居らぬ。即ち非注意の状態にあるものと云ふべきであります。

(二) 注意の性質上の分類

(イ) 無意注意

(ロ) 自働注意

(ハ) 有意注意

精神的活動は凡て注意作用として働くものではあるけれど、其の性質上より分類して見ると、諸種の階段に分るのであります。私は之を三ツに分けて説明するのが一番解りやすいとおもふ。第一の無意注意とは、殊更に或る一定の事物に對して意思を働かするといふではなく、何等か外界の刺激によりて精神が其方に傾くことがある。此の時

の精神作用が即ち無意注意であります。此の働きは後日に至りて記憶に残ることもあるが、皆が皆まで記憶として残ることはない。寧ろ其の儘になつて忘れて仕舞ふことが多いのであります。例へば、後日に至り、彼の時は左程氣を附けて居なかつたけれど、そんな事もあつた様ななと思ひ出すことがある。之れ即ち無意注意の記憶に残留したものであります。第三の有意注意とは精神的にも肉體的にも自己の自發的慾望が種々雜多に起る來る中で、其の中の一つを定めて、或事物に精神全體を傾け集めて働かすのを云ふのであります。又外界の事物は吾々に種々の刺激を與へるのであるけれど、それ等の一切に敢て耳を傾けない、即ち心を奪はれないで、自己の一定したる或る一事物に精神全體を傾ける、此の専心專意の働きのいふのであります。注意の三種のうちでも是れが最も必要なものであつて、人の精神修養上に於ても極く大切であります。隨つて教育などは専ら此の作

用を働かせねばなりません。即ち、つまり諸種の抵抗に押勝つ力即ち諸種の抵抗を打破りて一定の仕事をするのであります。それから、此の二者の中間に、自動注意と名づくべきものがもう一つあります。即ち、それは、殊更に有意的に働かざらぬでもないが、然かし頓と無頓着の間に起る作用でもない。注意するとはなく或る事物に心を奪はれはよく後日まで記憶に残る作用である。之れを名づけて自動注意といふのであります。

(二)有意注意の働きの上の分類

(イ)集中作用

(ロ)分配作用

(ハ)期待作用

昔から或る一派の學者は、注意とは必ず一點に集まるべきものとして解釋して居たけれど、今日では絶對に一點に集まるべきものとは考へられないといふことになつて居る。即ち有意の注意にも其

の意思傾注の度合といふものがあつて、多くの場合、朦やりした注意から次第に明らかになつて來るのであるが、其の度合の強弱によりて範圍が廣狹するのである。即ち注意の度合と範圍とは反比例する譯で、強く集中するに従つて明らかになるけれど其の廣さは狭くなる。それと反對に、弱くなれば朦やりはして來るが、其の廣さは擴大するのである。斯様に注意作用と云つても其の働きの度合が強くなり、弱くなり、明らかとなり、朦やりとなり、廣くなり、狭くなるのは即ち注意の運動である。處て、此五運動性があるから第二の分配作用が生ずるのである。分配作用とは俗に云ふ氣を配る事であつて、一寸聞くと注意作用とは正反對のこの様に考へらるけれど、決して反對のものではない。蓋し、分配と散亂とは大に異なるもので、散亂といへば全々注意作用と反對のことになる。然らば分配とは如何なることかといふと、一事物に心を集めて居る上に、其の事物に

關する諸方面に向つて心を運動せしむることである。即ち一事物を判然たらしめんが爲めに表面に或は裏面に或は側面に精神を分配して動かすのである。處が斯ういふ場合には生理的體の變化から影響を蒙りて精神作用にも變化を生ずるものである。これ等が即ち後に述べんとする注意の背景になるので、一事物の認識には必ず添ふべきものである。次に第三に期待作用といふがある。これは物を探がす時に起る所の作用で、例へば古本屋に立ち寄つた場合即ち何か目的があつて何程の本は見たいと思つて立ち寄れば直ぐ並べてある本をあさり回はして見もし又開いても見るけれど、豫め目的がなければ本を手にとつて見ることもなく沈んや聞いて見るなどいふことは更でない。即ち心に何等か期待して居る事に合はして探がして見るので之は單に集中でも分配でもなく集中、分配以外の作用といふべきである。詰まり集中作用は注意の初期であつて、分配作用と期待作用と

は稍込み入つて居る働きである。

(四) 注意の範圍

(イ) 最少限

(ロ) 擴大と不明暈

(ハ) 主眼と邊暈

前に言つた如く或人は注意は絶対に一點にのみ集るべきものだといふたが、それは今日では證明が出来ぬ。寧ろ前にも話した様に廣狹があるので、其の極めて強く明らかなる而して狭少なる場合はどの位かと實驗して見ると畧六箇位(勿論餘りに遠く距るものは論外なり)であるといふことに今日一般實驗學者の説は一定して居る。例へば或る近距離の場合に多くの點を印したるものを注視するに、其の中六箇迄には狭く注意を統一することが出来るといふことになつて居る。電燈を見ても六箇位迄に注意を集むることは出来るけれど、夫れ以内單一といふにまで狭く集ることは出来ない。尤も其の六箇を中心として集まつては居るもの、

單にそのみに限らるゝものではない。其の外部にも多少は注意を引いて居る。即ち朦やりながら弱いけれど認めては居るのである。されば注意は一所に集まると同時に其の點の周邊の物迄も暈視することが出来る。又これが最も必要なのである。

(五) 注意と生理的變化

(イ) 機關の調節

(ロ) 注意の律動

(ハ) 一晝夜中何時が最も注意作用に適するか

(ニ) 飲食物の關係

(ホ) 午前、午後、夜

(ヘ) 個人の特質及習慣

注意の生理的變化の次第を述べんに、第一機關の調節作用といふことがある。例へば眼か或る一物を認めんとして眼球のレンズが其の物に應じて調節すると同時に精神的即内部の作用にも調節が起るのである。凡て五感の作用と同時に精神も調節せらるゝのである。第二に注意には律動がある。

それは注意にも上り下りがあること、即ち律動的に働くといふことである。機關の調節にも上り下りがある故にそが内部にも影響して精神の働きにも上り下りを生ずるのである。呼吸に緩急あるが如く、脈膊に高度あるが如く、生理的變化によりて其の影響を蒙りて注意作用にも上り下りが生ずるのである。次に一晝夜中何時が最も注意作用に適して居るかといふことを研究して見ると、午前午後、夜と次第に變化がある。即ち三度の食事をする毎に高低があるのである。オックスフォードのマクデウガル教授の研究に依るに、午前八時より十五分間毎に試験して見ると、次第に認識の誤謬を増す。茶を飲めば元氣は多少恢復するけれど、午後は午前よりも一層誤りを増し、夜分は割合に正確であるといふことである。而して其の試験の間に茶に換ふるに酒を以てするときは、誤謬の度は著しく増すものであるといふて居る。其の他學者の實驗を總合して見るに一日中午前は九時よ

り十時の間、午後は三時より四時の間が最も活力旺盛であるといふことに一致して居るやうだ。然かし一概に斷定は出來ぬのである。それは、第一個人の食物の如何にも由るべく、亦其の特別的體質にも依るべく、亦其の習慣（寢起の時刻、職業、活動の差異等）に由つても異なる所のあるのは至當のことである。（次號完結）

○おさな子（一茶）

こぞの夏、竹植る日の頃、うき節しげき浮世に生れたる娘、愚にして、物に敏かれとて、名をさとと呼ぶ。今年、誕生日祝ふ頃ほひより、てうち／＼あわい、天窓てん／＼頭振りながら、同じき子ども風車と云ふものを持つてを、葎りに欲しがりてむつがれば、とみに取らせける。やがて、むしや／＼しやぶつて捨て、露程の執念なく、直に外の物に心移りて、そこらにある茶破を打破りつゝ、それも直に捲みて、障子の薄紙をめり／＼むしるに、能く爲た／＼と響むれば、誠と思ひ、きや／＼と笑ひて只捲りに捲りぬ、心の内一點の塵も無く、名月の皎々しく、清く見ゆれば跡無き俳優見るやうにて、なか／＼に心の皺を伸ばしぬ。（一節）

幼稚園保姆の家庭訪問の必要

甲 賀藤子

幼稚園問題か、保育の事に就いて、何か話せよとの事ですから、私は、幼稚園保育に直接關係のある、また、最大切だと思ふ家庭訪問の事を少し申して見たいと存じます。私の知つて居ります或る幼稚園の保姆の中には、家庭訪問は、害多くして益が少なくいと申され、また、其弊害を擧げて、忙しい母親達の邪魔をするとか、いろ／＼響應におづかり過ぎるとか、また、家庭訪問の結果から、子供に對して不公平な行爲を表はすやうになるとか、申されますが、それは、とんでもない事であり、若し保姆たるべき人が、人の迷惑になるやうな訪問をしたたり、御馳走に釣られたり、または、卑い感情から、不公平な心を起すやうな事があれば、それは、家庭訪問が悪るいのではなくて、其人が

わるいのです。今日は訪問して、ゆつくりお話しやうと思つて行つても、先方の様子を見た上で、庭からそのまゝ歸つてくる事もあり、また、一寸様子がわからねば、來意を告げて、時間の都合を聞くとか、また、あまり長居はせぬやうにして、無駄話をやめて、なるだけ要點のみを聞き、また話すやうにとめるとか、是等は、誰でも訪問者の常に心得て居るべき事柄であらうと存じます。私共は、家庭訪問をして、話して居ります間に、其母親から、其子供の教育の上に、非常に助けるなる事を澤山に聞き、大層益せらるゝのが常で御座います。また、此方からも、いさゝか參考になることを申残して歸る事が出来ます。私共は、幼稚園に出て居る間だけ、子供の事を思ふて居るのではありませぬ。ひまさへあれば、いつも、「あの子供の癖を」「此の子供の性質を」と一人／＼について考へて居るのですが、幼稚園で子供に接する時間は、僅に三四時間の事で、

其他は、凡べて家庭にあるのですから、どうして
 も、家庭の人々に私共の考へて居ること、または、
 説いて居る方法等を知つてもらひ、また、家庭で
 説いて居らるゝ方法等も聞きまして、家庭と幼稚園
 園とが一致いたすやうに計らねばならぬと存じま
 す。勿論、幼稚園で致します通りに、家庭では出
 来ないでせうけれど、少なくとも幼稚園の主義、
 方針を知つてもらはなければなりません。或る人
 は「とても、此の大勢の子供の家庭を訪問する事
 は出来ない」と申されますが、それも御もつとも
 です。私立幼稚園などで、比較の子供の数が少な
 くて、保姆の数が多し所などでは、格別六ヶ敷い
 事ではありませぬが、三十名も、四十名も一人
 預つて居らるゝ力などは、一々其家を訪問するの
 は、容易い事では御座いませぬ。でせうが、若し
 眞に其必要を感じて居られたならば、随分骨の折
 れる事です。或る方々は、多くの子供を預けられて、

むつかしい中から、此の家庭訪問をつとめて居ら
 るゝと云ふことを聞きまして、誠に喜んで居りま
 す。私は、只今三ツの幼稚園に關係して居ります
 から、實を申せば、それ等を悉く訪問し盡しては
 居りませぬが、なるだけ盡したいと、自らもつと
 め、また、私の助手にも絶えず獎勵いたして居り
 ます。助手の中には確かに其必要を認めて、怠ら
 ずつとめて居て呉れる者も御座います。私は、こ
 れまで、種々様々な子供を預りましたが、何れの
 場合にも、家庭訪問で悪い結果を見たことはま
 だ一度も御座いませぬ。たゞに我が國に於てのみ
 で御座いませぬ。白人でも、黒人でも、支那人で
 も、布哇の土人でも、スバニツシユでも、ポルトリ
 コでも皆同じ事です。自分の最愛の子供を預けて
 居る先生と思へば、子供に關係あることは秘密に
 屬するやうな事までもうちあけて話し、吾が子の
 將來に幸多かれと願ふ母の慈愛を表はされる事は
 常に御座います。實際他から見ても、わからぬや

うな込み入つた事情の許にある氣の氣な幼兒も數あるのです。こゝ内氣なやうな、いちぢたやうな子供の家庭を訪ねて見ますと、家にごた／＼があつて、どうしても、のんびり育つ事が出来ぬやうな境遇に居たり、また、母親が亡くなられたり、或は、母親が居られても、その温き手に育てられる事が出来ないで、唯義務的に、冷かに取り扱はれて居るといふ様な、氣の毒な境遇にある事も御座います。その様な子供は、此方からも、そのやうに注意して、談話の中にも、其子供の心にいたいたしい感じを與へないやうに盡してやらなければなりません。これも家庭の事情がよくわかりませぬ間はどうする事も出来ませぬ。また、中には、折角幸福な家庭に生れて居ながら、其周囲の人々が、教育の方法を誤つて居らるゝ爲めに、全く害せられて居るのを發見することも御座ります。また、いゝ子供だけけれど、どうも神經過敏のやうだからと思つて、家庭でよく聞きますと、果して、

家庭であまり細く氣をつけ過ぎて居られて、それが却て害をなして居ることが御座います。また、我が儘なやうな子供の家を訪ねて見ますと、家庭では勿論我儘にする積りでは居られない、唯可愛がつて居らるゝのですが、それが、知らず／＼の中に、我儘になる様に導かれて、遂に、どうする事も出来なくなつてしまつたやうな事も見出します。其他幼稚園で觀察したとは違つた有様を、家庭で見、家庭で思つて居らるゝとは異つた有様を、幼稚園で表はして居ると云ふやうな場合も屢御座います。是等は、保母たる者が、親しく家庭についてしらすべ、家庭の人、殊に母親と、保母とが、互に胸襟を開いて語りあつて、互の主義、方針を解し、その最善と信する方向を一にして、子供の最善を發達を計らねばならぬと存じます。時に、或は、その取る方法は相反して居るやうに見える事がありましても、此目的は相一致しなければなりません。

幼稚園では、子供が大勢集つて居りますから、私共は、「此の一團體」をと云ふ事を常に念頭において居ります。けれど、また、此の團體をつくつて居る各個人を、最大切に見て居るので御座います、一人々々に對する取扱ひの用心は、教師の方にあるので御座ります。同一の遊びや、仕事を致して居りましても、決して、同じ型に入れる事は出来ませぬ。また、同じ型に入れる筈のものでは御座りませぬ。

教育の理想は、「全き人を養成する」といふにあるのだらうと存じますが、元より私共の如き、至つて不完全なものが、とても、其理想を實現させることは、不可能なことですけれど、どうかして、其理想に近づき度いと願ひつゝ、毎日つとめて居るので御座います。

各個人を出來るだけよく發達させやうとつとめますには、是非とも、各個人をよく知るといふ事が大切なので御座ります。此頃、吾が國でも、個性

研究といふ聲が高くなつてまゐりましたのは結構なこと、存じて居ります。子供一人々々をよく研究して、その各個人の必要に應じて、或は、その不足を補ひ、或は、まだ覺醒して居ない善を呼び起すとか、また如何はしいと思ふ様な點は、自然に枯れてしまふやうにつとめなければならぬので御座います。さらば、どうして、其子供一人一人をよく知る事が出來ませうか、私共は、毎日子供と一緒に室内、或は室外で遊んで居ります間に、子供等の一人々々の特性を見ることが出來ます。

殊に、保姆の指導なしに、(唯保姆は監督だけして)遊んで居る時、即ち、子供が全く自由に餘念なく遊んで居る時には、子供が己れ自身を、有の儘に發表して居りますから、最よくその個性を知ることが出來ます。幼稚園の保姆や、其他、兒童研究をしたいといふ人は、此の折りを見失つてはならないと存じますが、まだ、之れだけでは十分といふ事は出來ませぬ。子供は、幼稚園にばかり居る

のではありませぬから、幼稚園外に於ける子供、即ち、家庭に於ける子供を知らねばなりません。子供が自由に遊んで、己れ自身をその儘に發表して居る時に、其子供を知ると同時に、また、その境遇や、その受けて居る感化を大略察することが出来ませぬけれど、それだけでは判然しない事が澤山あるのです。幼稚園で預かつて居る僅の時間中に研究しただけでは、決して十分といふ事が出来ませぬ。どうしても家庭と密接の關係をつくり、家庭内に於ける子供の有様をもよく知つて、家庭と幼稚園とが一致協力して、其子供の善き發達を計らねばなりません。子供の教育は、家庭が主なので、幼稚園は、唯その缺を補ふやうなものですから、どうしても家庭との深い關係を絶つ事は出来ませぬ。(文責記者)

○初雪や子供の持てあるくほど
○女の童と男の童と遊ぶ火燵哉

(千代)
(子規)

小兒の傳染病に就いて(一)

醫學士 唐澤 光徳

一四

今日には幼稚園時代、即ち小兒の四五歳頃から七八歳位の間に一番多く來る所の傳染病の御話を申し上げることに致しました。

此の會は醫學には専門の會でありませぬから、症候其の他に就て餘り精しいことは略しまして、幼稚園に來て居つて病氣が始まる前に注意すべきこととの、又癒つて幼稚園に來た時分に、其の取扱を爲さる保護者として氣を付けべきこと等に就て一寸御話ししようと思ひます。

一體極端に申しますと云ふと、幼稚園と云ふものは一種の病氣の間屋のやうな形がある。少し亂暴な言ひ方でございますが、大に注意を要することでありませぬ。全體醫者の方で非常に嚴重にすれば、病氣が全く治り切らない中に子供を幼稚園に寄越すと云ふやうなこともありませぬし、又幼稚園の

方にも相當學識ある小兒科醫者が園醫として勤めて居るやうですと、直ぐ其の症候を診て、宅へ送り歸へすことも出来ませんが、實際に於ては未ださう云ふことも出来ない爲に、子供を幼稚園にやると屢々傳染病にうつつて來る。それで私も常々さう云ふ風のことを一度御話をして、皆様は注意をして下さつたら大變仕合せであると存じて居りました。

一體傳染病は、一般に申しますと云ふと、皆微菌から來る所の病氣であつて、其の微菌が空氣なり食物なりによつて身體に侵入するのですが、幼稚園で最も氣を付けなければならぬのは、多く空氣から來る傳染病が多く、食べ物の方の少ないのであります。例へば麻疹だとか、水痘、それから風疹、猩紅熱、實扶帝里、さう云ふ風の病氣は主に空氣の媒介に依て來る病氣で、是等は幼稚園で子供から子供に極くうつり易い。中にも殊に一番危険なのは例の百日咳であります。例へば幼稚園

で甲の子供から乙の子供が染つて、不幸にして其乙の家庭に三歳より小さい子供があると、それに感染して、それが爲に乙の家の幼兒が遂に悲惨なる死を遂げるやうな場合があります。是等は即ち間接に家庭に於ける非常な障礙になつて居ります。それでありまますから今日は順々に極く簡単に、一通りの傳染病の御話をして、皆様が之に就て知識を御持ち下さつたならば、單に幼稚園ばかりで無く、子供の家庭の方も大層利益だと思ひます。先づ一番初めに申しますのは、

猩紅熱

此の猩紅熱は、子供の傳染病の中で一番重いもので、是は何う云う譯か日本には今まで割合に少かつた。少くとも明治三十七八年頃までは非常に少い病氣でありましたが、同時に又實が良くて死ぬのが餘程少い傳染病でありました。處が明治三十八九年頃からは、醫者の方の知識も進歩したのか知れませんが、非常に澤山の患者が出て來て去年、

一時年當りは、西洋でも我國でも非常の流行がありました。此病は極く質の悪い流行になり、患者の中の四分の一位が亡くなつて仕舞ふ。其の原因は何ふ云ふ微生物で來るか云ふ事は、今日は未だ分りませぬが、兎に角人間から人間に移ると云ふことは立派に分つて居ります。バギンスキールと云ふ教授は之れについて一の微生物を發見して居りますが、それは未だ一般に認めて居りませぬ。此の病氣に罹る者は生憎此の幼稚園頃の三歳から八歳位のが一番多い。此の病の來る途は空氣、食物、衣類と云ふやうなものから來て、子供から子供へとうつつて行くのであります。此病氣に感染してから發病するまでの間は能く分つて居りませぬが、一日位で直ぐ始まることもあり、又長いのは六日七日位も經つて發病するものもある。それから又十四日位經つて始まるものもある。一般にどの傳染病でも病氣が第一の子供から第二の子供に傳染して直ぐ發病するものでない。微生物なら微生物が

氣道なり胃腸なりから身體に入りて直ぐ病氣が起るものでなくして、所謂潜伏期と云ふものがあつて、其の潜伏期が過ぎると初めて熱が出る。云ふ風になつて來るのであります。例へば一人の子供が猩紅熱に罹つて居る。其の子供と一緒に居ると、其の第二の子供にうつつて來る。第二の子供にうつると病氣が起る。此間の時間が病氣の子供と一緒に居つてから早いのが一日、遅いのが十四日、それが即ち潜伏期と名づけるのであります。例へば多勢の子供の中に一人病氣に罹つて休んで居る。今度は次の所に坐つて居る子供に六日なり七日なりして同じ病氣が起つたとする。すると、其の第一の子供から第二の子供に病氣が傳染して、潜伏して居つたのが、六日なり七日なりであつたと云ふことが分かるのであります。それで此の猩紅熱なる病氣の初めは、他の熱病と同じく頭がして、寒氣を感じ、又喉が痛いと言ふことを訴へるのが非常に多い。時に依ると吐氣

を催す。何も悪い物を食べたのでなくたい吐くのが多い。(一般に三歳以上八歳位までの子供にもしこういふ吐くことがあつたならば何か重い病氣の元で無いかと氣を付けなければなりません。)其時分に小兒の體温を計つて見ると、高い時には四十度五分、四十一度位になつて、何となく子供が弱つて、懶るさうになつてをる。夜などは眠らない。さう云ふ風になつて來てから、早いのが半日、遅いのも二十四時間經つと云ふと全身の皮膚に發疹を催す。今御廻はしをします、此の蠟細工のやうな、斯う云ふ風な極く一面に眞紅な猩々緋見たやうな發疹を起す。之を能く眼鏡で見ますと一面に紅いのではなくて、極く小さい點位の紅い發疹が皮膚に出來て居る。猩紅熱と云ふのは、即ち猩々緋見たやうな色をすると云ふ所から出た名前で、西洋人の子供であると皮膚が眞白の爲に本統に眞紅になつて猩々緋のやうな非常に綺麗な色を呈するのでありますが、日本人は皮膚が黄色で

ありますから斯う云ふ風の變なブチのやうな猩々色になる。この發疹の一番初めに起るのが大抵頸から胸の當りに起つて來る。いきなり身體中に何處にも此處にも出ると云ふものでは無い。初めに頸から胸當りに出て、それから次いで腹から背中にいで、終には顔手足に來る。手足が一番後で出て來る。其の時分には大抵の患者は咽頭を非常に痛がります。咽頭を開けて見ると、事に依ると實扶帝里のやうに白いものが着いて居る事もあります。實扶帝里と一緒にやつて居るのでは無いかと思ふこともあります。それから發疹後二日目位ゐになると、此の色が愈よ濃くなつて來て眞に猩々緋の色に近くなつて參ります。此發疹によく似て居りますのは風疹即ち俗に「かざはな」と云ふのでありますが、風疹の方は是れ程眞紅に出ない。モツと雜に出て來る。それから麻疹の時には、是は生憎蠟細工が出來て居りませんから、此の本を後で御廻はしを致しますが、此の圖のやうに、皮

膚に出方が密でない。即ち、發疹の間に健全な皮膚が残り居る。一つ一つの發疹物を見ても餘程其粒が大さくて、さうしてハッキリして居る。此方の猩紅熱の方でありますと、一面平らに紅くなつて居りますが、麻疹の時は皮膚がつぶだつて居る外に、其病兒の眼が悪い。眼の結膜、粘膜が眞紅になつて、さうして能く涙が出ますから、大抵それで麻疹と猩紅熱とは區別が付きます。次に前申しました猩紅熱の發疹は、早いので七日、遅いので二週間位の續くと此の色が漸次褪せて行つて元の皮膚の色になります。尙其時分でも他の小兒に感染する力を待つてをります。其他この病の一特色は、治り際になると全身の皮が剥けて來ることである。早いのは熱が出てから二週間、遅いのは三週間四週間位から身體の皮が剥ける。其の剥げ方が麻疹と違つて大變に大きい。初めは腕の付け根、頸の周圍、さう云ふ皺の寄る所からして皮が鱗のように剥けて來る。其の皮の剥け方

が麻疹のより大きくて、大きいのは一寸四方位に剥けることもあるし、尙ほ指の先になると手袋のやうに剥けて來るものもある。又足の方になると草履の底のやうに厚く皮が剥ける。此むけた皮膚の片にも非常な感染力がついて居りまして、從つてさう云ふ風な場合に、其の皮の極く小さい粉でも残つて居ると、其の皮からして此の病氣が傳染する。衛生上から言ひますと、之が一番危険なので、極く悪い時分には十分氣を付けて居りますから別に危険も少うござりますが、治り際になつてからして皮が落屑をする。其の時分が一番危険である。近來では大分入釜しくなつて居る爲に、勿論入院して治療を受けるやうになつて居ります。極く分らない家庭になると、麻疹に類似して居るが爲に麻疹位に思つて、丸で分らないで家でやつて濟まして居る。さう云ふのが随分危険である。知らないで家でやつて居る爲に熱が下がると又幼稚園に寄越すと云ふやうなことがあります

致しますまいか。もしさう云ふのがあつたらば實に危険であります。其危険の程度は私等も能く遭遇しましたが、或る一軒の家で猩紅熱をやる。立派に警察警も行つて實に嚴重にして、疊の上は特別に油團即ち澁紙のやうなもので敷きまして、入る時には家の者も誰も皆衣服を着更へ、上衣を着て、草履を穿いて入ることにして、其の位嚴重にして置きましたも、其の家に住んで居る中に一年も経つてから其の兄弟が又猩紅熱に罹つたと云ふやうな場合が随分ある。又或る一軒の家では、前に住んで居つた人が猩紅熱に罹つて居つた爲に次に借りて来た者が猩紅熱に罹ることが随分ある。若し不幸にして其の皮の剥けかゝつて居るのが幼稚園にやつて来られると、又他の子供と一緒に遊ぶやうなことがあると其の爲にうつるやうなことも随分出来て来る理窟である。少くとも若し傳染病の疑ひのあつて歸つた子供で治つて来た時分に、若し手足の指などの皮の剥けかゝつた跡か

あつて、未だ十分で無いと云ふやうなことがあつたら相應の醫者に見せないと、其の爲にこの危険な病氣が非常に蔓延する。それで治つてからの特徴は詰り皮の剥けて居ると云ふことが一番確かである。殊に初め熱が出てから皮が剥けて仕舞ふまでは大抵三週間から、長いになると六週間位もかゝつて一番終いに何う云ふ所が剥けるかと云ふと、手足の裏と云ふやうな所が一番終いに剥ける故にみな様はさう云ふものに異状があるかないかには餘程御注意を爲さなければなりません。又實際にさう云ふ場合がよくある。相應に病院に入つて居つても、熱が無くなつてから、平素見たやうにピン／＼して来てからも四週間五週間寝かして居ると患者の方でも堪へられなくなつて、湯に入つて歸つても宜いかと云ふやうなことがある。時に依ると、未だ皮の剥けきらない中に歸るのもあるだらうと思ふ。さう云ふ風なのを何も分からなくて直ぐ幼稚園に寄越すと云ふのが無いとも限

らない。

麻疹

前の猩紅熱の方は死にますけれども、麻疹の方は死ぬのは極く少い。小さい満二年以下の子供であると死にますけれども、もう幼稚園に來る位の児童になると、平素餘程弱い子供で無ければ死ぬことは無い。人間の病氣の中で此の位人間から人間にうつるのに極くよくうつる病氣は無い。此麻疹も前に述べた猩紅熱も、一度罹ると二度罹ることは極く稀である。千人に一人位は麻疹を二度患つた、猩紅熱を二度患つたと云ふことがありますけれども、是は極く稀なものである。それですから時に依ると、態々麻疹にうつらして仕舞ふやうな人もある。それで麻疹は皆様もおやりになつて御承知だらうと思ひますが、之も吾々の方から言ふと何う云ふ微菌で起るか未だ其の原因は分つて居らない。やはり前の猩紅熱と同じやうな患者の衣服とか、器物とか、或は患者から出た鼻汗と

か、唾液とか、呼吸等からうつるやうである。此の病は人から人に移つて發熱するのが九日から十日經つと起るらしい。其の時には初めは眼が、此の本の繪にもありますやうに、眼の粘膜が紅くなつて結膜炎を起す。涙が出て眩しいやうな眼をする。熱は猩紅熱より高くは無いが、三十八度九度位あつて、咽頰が悪くなる爲に子供が咳をする。さうして二日目位になると云ふと、段々發疹物が出て來る。其の發疹物は多くやはり顔と胸、頸の廻りが一番早い。初まりには極く少い。五つ、六つ或は二三十位しかない。それが二日目、三日目からは此の繪にあるやうに非常に多く起る。發疹物の種類は、猩紅熱と違つて、此の繪だけでは分りませんが、猩紅熱よりも大きい。其の皮膚の發疹物と發疹物との間には健康の皮膚がありますから斑のやうになつて來る。此の頃は亞求利加のゴブリック氏が千九百二、三年度頃に始めて見出した「コブリックの斑」と申すのがあつて、發疹前に已に

麻疹を診断する事が出来る。即ち何うも麻疹になりはせぬかと思ふても身體に發疹物が無いが、口を開かして見ると、上顎だの頬の所に白い留針のやうな極く小さい直徑一分位の眞白の斑點が口の中なかの粘膜ねんまくに起つて居るのが分かる。それは今迄調べられた所に依ると、百人中七、八十人位は其の發疹物が起る前にさう云ふ白い斑點が起つて居る。此の「ゴブリツク」の斑まだらが発見されてから、極く早く麻疹が我々の方で分かるやうになつた。それから後は熱が起つて來て、段々猩紅熱と同じやうな身體中に發疹物が擴がつて來て、約十日位経つと大抵熱は下つて仕舞ふ。此の時はやはり身體から皮が剥けますけれども、大きくは無い。丁度糠のやうに粉になつて皮が剥ける。猩紅熱のやうに片を爲して剥けるやうなことは極く少い。さうして其の發疹物の後には黒い汚點のやうなものを遺しますから、麻疹をやつたと云ふことは一ヶ月位は分かれます。それから彼は**大抵無事に治り**ますが、唯茲に氣を付けなければならぬのは、非常に弱い瘰癧質の子供などは、麻疹の後に熱が取り切れないで、結核性の腦膜炎を起したり、或は

肺病になることがよくある。それが爲に麻疹と傳染をやはり我々は恐がるので、弱い子供には成るだけ年を取つてから麻疹に罹らせようと努めて居るのであります。一遍だけ經過して構はないならば氣を付けるに及ばぬ。ドシ／＼片端からうつらして行くのが簡單かも知れない。けれどもさう云ふやうな弱い小兒もありますから充分の注意を要します。それとモウ一つ氣を付けべきことは、今次話したやうな病氣が何の位の日數を経つたらうつらないか。是非非常に難しい問題で、體に幾日と定める譯に參りませぬけれども、**猩紅熱の時**であると、少くとも身體中の皮が**全然剥けて仕舞つて**、若し出来るならば二度位湯に入つて、能く身體を洗ひ、衣服も新しいのに更めてから、幼稚園に來て貰つたら大變都合が宜い。さうすれば、感染の虞は略無い。麻疹の方は通常湯に入つただけでは熱が下つて來たからと云つて、湯に入れただけでは、危険で無いと思はれる節もある。少くとも熱が下つて仕舞つてから一週間乃至十日、湯に入つてからも一週間位後になるまで、それまでは遠慮して來て貰つた方が宜いと思ふ。

保育法改良上の要點

和田 實

我國に於ける幼稚園の保育法が明治九年に始めて東京に開始せられた以來茲に三十有五年。其間實際の保育上には幾多の改良や進歩が行はれたには相違ないが、所謂保育法の原理原則と云ふものの上には三十五年間に於て然したる進歩を見ない。近く數年間に於て幼児の教育は主として境遇に因る教育であるから其教育法としては幼児の生活の全部を支配し得る様に施設しなければならぬと云ふことが、一般に認めらるゝ様になり、従つて幼児教育の方法が頗る自然的になつて、幼児の天眞を發揮し其幸福を増進する様になつたのは大に吾人の満足に思ふ所である。併しながら、行ひ慣れたる從來の保育法は中々改良することが六ヶ敷しい。殊に別段に進歩したる實際の模範を示す人少なき現在の保育界では、假令改良には熱心であり

進歩には心掛けて居つても、之を如何に改良し如何に進歩せしむ可きかに就いて明瞭な理想を捕ふることが出来ないで困ると云ふことは、能く聞く所の訴へである。誠に無理ならぬことである。そこで、吾人は勿論、實際の經驗の頗る乏しいものではあるが、唯幼児教育の理想の上からして當然かあるべきであると思ふことに就いて茲に一二の説明を試みて見やうと思ふ。

由來、幼児の教育は之を客觀的に考へれば云ふ迄もなく其境遇の感化に因る可きであるが、之を更に主觀的に考へて幼児自身の生活上から、之を見れば、實に幼児の教育は其遊戯的生活の充足と其日常生活の規制即ち習慣的生活の躰方とに因つて成るものと云はねばならぬ。之が我輩の主張する新保育法の要領で、云はゞ幼児教育の二大方面である。保育法が此二つの方面に於いて充分に研究され充分に施設さるゝならば、最早幼児教育は完全なものと云はねばならぬ。果して現在の保

育法は此二つの方面を充分に研究して居るであらうか。

先づ、遊戯的生活の充足と云ふことに就いて考へて見るに、之には三つの要件がある。一つは遊戯の種類豊富と云ふこと、一つは遊戯的興味、の發揚と云ふこと、今一つは遊戯的自由の擴張と云ふことである。子供の遊戯を充分に満足させて遣らうと云ふには兎も角も幼児をして望む所の遊戯要求する限りのいろ／＼な遊戯を行はせる必要がある。人或は餘り多種類な遊戯をあれも是れもと行はせるのは、子供を淺薄にし其頭腦を雜駁ならしむるものであると云ふ人があるけれども、是は思はざるの甚だしきものである。成る程、幼児の遊戯は淺薄である。併し、是は、大人から見ての淺薄であつて、決して、子供から見ての淺薄ではない、大人の目に誠に詰らなく見ゆることでも、彼等幼児に取りては、實に大事件たることは幾等もある。ガラ／＼を振り太鼓を打つことは、大人

から見れば實に馬鹿らしいことではあるが、幼児には大なる活動で、然も大なる學修であつて、決して輕視す可きものではない。或は雜駁は悪いと云ふ。併し、之は甚だ其意を得ぬ攻撃である。天地は廣し、國は多い。知る可きもの、覺ゆ可きものは世の中に滿ち充ちて數限りがない。此知識を要し此記憶を要する世の中に處するに多くを覺ゆると云ふことが何に惡からうか。勿論森羅萬象中には決して覺えて宜しきものばかりでないことも數多あるには相違ないが、其は道德が明に之を指示して居る。此道德の指示に抵觸せざる限りは何を覺え様と決して悪いと云ふことは出來ぬ。或は又専門教育の如き部類に於ては云ふ迄もなく、覺えて惡くはないが益が少ない。夫れよりも、つと利害關係の密接なもので覺えなければならぬと云ふものがあると云ふことは隋分、多いこと、は思ふけれど、普通教育の其又基礎的教育を行ふ所の幼児教育が幼児の生活の將來を見越して夫れ

に偏せしめねばならぬと云ふことは決して出来ないものでないし、又決して爲す可きことでもない實に幼児は如何なる方面にも適ひ得る様な廣い一般的陶冶を受けさせて置かねばならぬものである此主意から考へれば、幼児が此廣き陶冶を受ける手段として種々なる遊戯の經驗を有することは大に嘉みす可きことであると思ふ。或は幼児をして斯く廣く色々な遊びをさせることは頓がて生長の後、彼等をして移り氣多き飽き易き人間たらしむるものであると心配する人もあるが是は幼児の心理を知らぬ人の云ふことで、所謂、老婆の取越苦勞である。幼児の一事に長く従事することの出来ないのは決して悪い意味の倦易い爲めではなくて、實は聯想作用の活潑なると消極的努力の發達せざるとに因るもので、決して之が後の大害を爲すと定まつたものではない。子供は年と共に此活潑なる變化多き生活を漸次に少ふして遂には一事に向つて長く注意し長く同様な活動を續ける様に

なるものである。尤も子供に因つては其興味が何時迄經つても動搖して居つて少しも固着する所がないと云ふことが間々あつて大に教育者を悩ますことがあるけれども是とも決して數多いものではない、故に一般に幼児の遊戯はあれや是れやと種々雑多に遊戯し回はる所に其利益こそあれ、決して害のある可きものでないと云はねばならぬ。既に幼児には多くの遊戯を興へなければならぬと云ふ以上は幼稚園の遊戯は如何にして之を豊富ならしめ得るやは次に研究すべき問題であつて是が頓がて現在の幼稚園保育法を改良せしむる原動力なる可きものである。

現在法令で規程して居る所の幼稚園保育事項は談話、唱歌、手技、共同遊戯及隨意遊戯の五種である。隨意遊戯の名前は如何にも都合よき名前である。隨ふ可き凡べての遊戯を包含して居る様ではあるが之を幼稚園保育の實際に就いて見ると設備の豊富な幼稚園は兎も角、東京の中央に於ける様に

な設備の不完全なる所では其隨意遊戯中に行ふ所の遊戯としては唯僅に二三種に止まるものが多い吾人の認むる所では幼児の遊戯の種類は少くも十種を降らざる可きである。然るに現在の幼稚園では一齊遊戯として談話、唱歌、手技、共同遊戯をなさしむる外は隨意遊戯として唯幼児の徜徉に任すのみで幼児彼等自身見出し能ふ限り、而して禁止せられざる限り僅かなる種類を遊ぶのみである現在の幼稚園は此點に於て大に不完全なるを免れない。

そこで我輩の改良案としては保母が凡べての幼児を同時に、一齊に、同一の遊戯を以て遊ばしむる一齊保育と。幼児各個の自由に任せて三々伍々其好む所に趣かしむる各個保育即ち隨意遊戯の時の何れを問はず。共に我輩の所謂十種の遊戯を行ひ得る設備を整ふるを以て幼稚園當然の施設とする様にしたいのである。豆細工や折り紙は保育室に於て机腰掛に倚りたる時のみに行はないでも子

供の自由に遊んで居る時に好むものにさして決して悪いことはないと思ふ。否、吾人は斯くするのが最も自然的で教育的である様に思ふのである。子供が爲たいと思ふ其時をはづさずに粘土細工でも唱歌でも鬼事でも爲て遣るが善からうと思ふ。斯くするときは一齊保育の際に行ふ可き凡べての遊戯は同様に隨意遊戯に於て凡べて之を繰返すことが出来る。若し是が充分に出来るならば全然一齊保育を廢しても決して差支ないと思ふ。元來一齊保育は小學校の教授を模倣したもので衆兒を同時に同一の事に従はしむる爲めに保母の手數と勞力を省き得ると云ふことを便利として發達したもので元々人爲の事であるから幼児各個の行動を制限し多少の無理を行つて居ることは實際止むを得ぬ次第である。故に完全なる幼児教育と云ふ點から見れば決して貴ぶ可き筋のものではない。吾人は若し吾人の主張する如く其隨意遊戯を生きたる保育場とするものがあるならば今日に於て一齊保

育を全廢しても決して差支ないと思ふのである。人或は若し斯様な保育方法を探ると云ふと保母の不便と努力とが甚だしい様に思ふものがあるけれども、之は然したることは無い様に思ふ。聞く所に據れば東京なる九段の精華學校附屬幼稚園では既に疾く之を實行して居るが、却つて保育が容易に行はれて幼児の成績も宜しいと云ふことである。此様な實驗は心ある讀者諸姉の處では多少とも既に御實驗のある事と思ふ。吾人は夫れを擴張して大に其方法を研究されんことを切望するものである。

是に至つて反對する方があるかも知れぬ。一齊保育を廢するときは幼児は己が好む所にのみ走つて其肆する所の遊戯を選択し、従つて興告なき遊戯には決して近寄りぬものが出来るに相違ない、故に矢張一齊に保育して各自の偏傾を防ぐ方が得策であるといふ方があるかも知れぬ。併し是は餘りに神經的な重箱主義、鑄型主義の考である。成

る程凡べての遊戯を隨意に選擇せしむるときは己れは豆細工は嫌やだ、粘土細工が善いと云ふものがあるに相違ない。併し此様な小さな特種の事物に好嫌があつても其大項目たる手細工と云ふものを全然何もせぬと云ふものは幼児の性質として決してある可きものでない。苟も不具に非らざる限りは凡べての幼児は假令爲るなと命ずるとも機會だに與ふれば必ず我輩の所謂十種の遊戯は之れを爲るものであることは斷じて疑ない。故に各個々の遊びの材料は如何様に異つても其遊戯の種類さへ缺くることなくば決して幼児の發育上に固障を來すことはなく従つて凡べての材料を一様に衆兒に課する必要がない。斯く云ふと然らば遊戯材料の豊富と云ふこと、矛盾するではないかと云はれるかも知れぬが、決して然うではない。吾人は遊戯材料の豊富を希望するが併し之を妄りに幼兒に強いんとするものではない。幼兒の遊戯的生活の充足としては第二に興味の發揚と云ふことを

考へなければならぬ。遊戯材料は如何に豊富でも其材料が幼児の興味に副はぬ様なものでは何等の價値もない。而して其遊戯材料に果して幼児の興味があらうか何うかと云ふことは大人の感情を以て完全に憶測することは出来ぬ。従つて遊戯は到底之を幼児に強ゆることは出来ぬ。併し強ゆることが出来なくとも、若し強いざることが教育上果して有害なものならば吾人は殊更に好んで幼児の選擇に任かすことを主張するものではないが、既に前にも述べた通り任かしても決して害なきものであるから安心して之を幼児自身の選擇に任せ、充分に其興味を發揚せしめんことを希望する次第である。而して是が亦遊戯的生活の第三要件たる遊戯的自由の擴張の缺く可からざる理由となるのである。

前にも述べた通り幼児の聯想は強く且速かに流るゝものであるし、其興味は亦熱烈なものである。此時に乗じて動くのでなければ精神込めた活動は

出来ないのが幼児の當然である。精神込めたる働きをさせなくては子供を偉大らなしむることは出来ぬ。斯様に考へて來ると幼児が其興味を赴く所に従つて自由に其遊戯を選擇することは自然的發達律を重んずる教育法としては固より當然の事と云はなければなるまい。是即ち我輩が管々しく幼児の隨意遊戯を豊富にし之を完全なる保育事項たらしめんことに腐心する譯である。

併し、茲に斷はつて置かねばならぬことがある。人或は隨意遊戯とは幼児を放任することである。放任して置くことが幼児教育の本旨に適ふと云ふならば之は誠に譯のない事であると云ふ方があるかも知れぬ。是は飛んでもない間違である。幼児の自由遊戯は決して放任す可きものではない。一齊保育よりはモット、非常な厄介なものである。何となれば自由遊戯を充分に行はせようと云ふには第一に遊戯材料の供給を、時機を逸せず常に豊富にせねばならぬ、是れ一ツ丈でも中々ばん



やりとして居る譯には行かぬ。其上、自由行動の盛んな時であるから、彼方で玩具の奪ひ合ひがあるかと思ふと、此方では打ち合が始まる。會、今日は静かだと思ふと、けた、ましい叫聲は怪我人の出來たことを報ずると云ふ様に中々油断も隙もあつたものではない。決して吞氣で樂だなど、考へ可き時ではない。教育は生きた事業である。人間の活動に形式を興ふことが教育の仕事である以上は吞氣でないのは當然の事であらう。此活劇の間に奮闘してこそ始めて幼児を完全に躑くるこゝとが出来るのである。保育室に坐らせて置いて、談話や唱歌をして居る中に躑が出来ると思ふ人は血の通つて居る人形を作らんとする人の理想であつて我等生きた人間を作らんとして居るもの、考へ及ばぬ所である。

サア、斯うなると次には幼児を如何に躑す可きかと云ふことは是亦重大な問題である。保育法の改良問題は此方面にも大に横はつては居るが、限り

ある頁數を興味少き理屈談で埋める様になるから、是は次號を期すること、しよう。要するに保育法改良の第一着として幼児の隨意遊戯を指導し如何に有効に過ぎしむ可きかと云ふことに研究の歩を進めるのが最も至當なことであると思ふ。

野猪の話

平島 權藏

今は昔源右府が富士の卷狩の折に名を残し、後の世までも兒女の耳を聳へしむるのが、曾我の夜討と、仁田の四郎が野猪の仕止めとで在りました。此野猪に就て少しく御話致します。

猪は野猪を唯、何の氣もなしに觀ますと、丁度オサツに箸でも突き挿した様で、誠に不恰好なもので生態上として何の意味も無さうで在ります。所がなか／＼大有りて先づ第一に

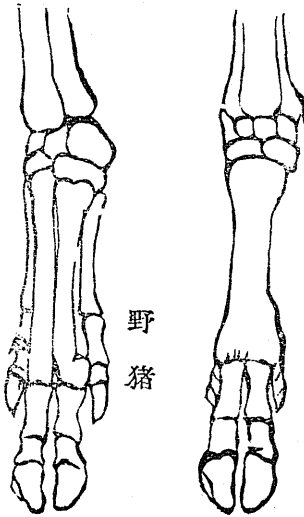
一、圓錐形の頭

これは二つの楔を合せた様に

先きが尖つて居て、如何んな物でも是れで押し別け、突き通すといふ様に出來て居ます上に其後に續く體軀も、又一層大形の楔を合せた様で太く強いので在ますから、彼れの棲家たる山地の灌木や雜草の生ひ繁る、所謂荆棘の中を造作もなく馳驅する事が出来るのは、魚形水雷が海水を突破すると同じく又鰐や鱒の様で在ます（所謂彷彿形を致して他の抵抗を少なく致して居ります）

二、短い脚は力が強くて

脚の骨比較



野猪

牛

すから、非常なる力に耐へられます、牛の蹄も是れと同じで、唯兩側のが著しく小さくて全く地を踏まぬだけが違ひます。

三、水田を耕すに馬よりは牛の方が都合が宜しい、と申事は御聞にもなりましたでせう。是れは何故かと申ますと、馬の脚は蹄が一つで、水田の中に深く踏み込み、再び抜かうと致すと頗る困難で（空氣の壓する面が廣い）在ます、が牛のは蹄が二つに別れて支へますから、割合に深く這入ませぬのみならず

此蹄は固い骨の上を、角質のもので確かりと包んで居るので在つて、野猪の力を籠めて地を踏む時には、中央の二つは別れて體を支へ、猶強く踏む時は兩側に在る、前のよりは稍上方に位するものは是れに次ぎ、都合四つの蹄で支ふる事になりま

抜く時には是れが集まつて、一本の様になりますからで在ます、野猪のは今一層都合が宜しいから澤でも沼でも自由に涉る事が出來ます、是れから推し考へると、野猪の近い祖先は、沼澤に棲んで居たと申事が判かります、現に歐洲では沼澤計り

に棲んで居る種類が在ります。是れは頗る大形の
もので、五十六七貫目に達し、其小供の時には體
長に沿ふて縞が在ります。水牛も河馬も其蹄は皆
似て居ます。何れも沼澤の動物で、蹄の數から名
を取つて偶蹄類と申します。馬の類は其故に奇蹄類
で在ります。次ぎに昔の猪狩の記録を讀ますと、何
の某と銘打つたる鏑矢が、彈き返されてなど申
す

四、鐵の様に固い毛皮 は、是れまた野猪が荊
棘を分け行く爲めの、防禦物と見るの外は在ませ
ん。又

五、針金の様な強固なる毛 是れも野猪が突破
し進む時を觀察すれば勿論、想像でも直に理會せ
らるゝ譯で在ります。若し羊の毛の様で在つて御覺
なさい、逆も荊棘を分けて突進するなど、思も寄
らぬ事で在ります。

六、小さな眼 は厚い強い瞼で覆ひ被され、深
く存在する即ち奥眼で在ります。是れもどん栗眼の

出眼で在つては、荊棘を分け行くに忽ち次に突き
刺さるゝ心配が在るからでせう。

七、彼れの寐床 は枯草などを集めても作りま
すが、また防禦力弱き子供の爲めには、餘程注意
して丁寧を作りします。是れは草ばかりでなく、小
枝や茨をも集めて、容易く他獸に侵されぬ様にす
るので在ります。然し何れにしても斯様な寢所で
は、深い穴居のものなどの様に、安心して寝る譯
には參らぬ、其心を詠める、

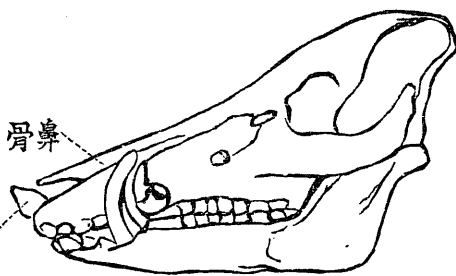
枯草かく臥す猪の床の寐をやすく

さこそ寐ざらめかゝらずもがな
斯様に彼の體驅は、全く荊棘中を馳驅して、食を
獵り敵を追ふに適したる様に作られて居ます。次
ぎに彼れの

八、食物の側から觀察 して見ませう。一般に
動物に就て其食物を知らうと思ふには第一に注意
するのは齒で在りまして、齒は食物の如何に據つて
各異つて居ります。肉食の動物では先きが尖り。草

食の動物では先きが潤くなつて居ます。是れは前者は肉を噛み切り引き割くに適し、後者は穀物などを磨り碎き搗き粉なすに適したるもので在ます、所で野猪のは何れで在るかと思ふと、

一、前臼齒四枚 是れは牙(犬齒と申ます)の次より數へて四枚で在ります。それが恰ど肉食動物の通り即ち尖つて居ります。(猫のと同様)次の三枚即ち一番奥に並んで居ます齒は、上表面が潤くて草食動物の通り骨頭で在ります(牛のと同じ様に)。斯の様に野猪の臼齒は二様の形を有して居るのを見ますと、何うしても草肉二様の食物を採るに違ひ在ませぬ、野猪は實に好んでキノコ、クルミ、クリ、カシ其他野生の果物のみならず、昆虫並に其幼虫、蝸牛類、蚯蚓、野鼠等をも食するので在ます、だから冬期になつ



て、是等の動物の蟄居せるを採し出す爲めには、植物の根を掘り起し或は皮を剥ぎなどします。又春夏の季節には畑に出で、作物を荒す事が在ます然し概して野猪は、肉食よりは草食の方を好むので在ます。

二、又、前齒は上下に各六枚在つて割合に大きく、猫と同數で在ります(頭の骨が前齒の生へて居る所は非常に狭くなつて居ります。だから昆蟲や椶の實などの、小さいものを地上から採つて食べるのに、甚だ都合善く恰度「ピンセット」の様なきをいたします。

三、野猪が食を採す爲めには夜間其臥す猪の床を出で、其所此所と獵り歩きまします。彼れの鼻の感覺は實に鋭敏なもので在ります。嗅ぐ事の鋭敏なのは他の獸類にも澤山在りますが、一寸面白い御話を一つ付加へませう。山間などの

誠に途の判かり悪い所に、犬を連れて歩きますと、曲り角曲り角で犬は少づ、尿を途傍の草木に掛け然して歸りには鼻でフンフン嗅ぎながら行きます。實に感心なもので在ります。

四、耳も非常に能く聞へます。是れに就ても先年私の知人が、徳島縣の椿泊と謂ふ所で、此所は山脈が海濱迄達して、其間に點々して田畑が在りますが折節春の末つ方野猪（此野猪は祖谷と申す深山から山傳ひに出て參ります）が出て畑を荒すとの事、是を打捕らうと銃を携へ、三四の人々と宵闇に乗じて、海岸に引上げたる船の中に隠れて、其出るのを待つて居ました、すると夜は次第に更け行き、月海上に差異り、見渡す隈のなき迄に照り渡り、えも言はれぬ景色となりました、今か今かと待ます内に、山の端にフウフウと太い鼻息が聞こえて、黒色の小牛の様な躰軀が顯れました、と思ふ内に方向を轉じ他方から廻はつて、ガサガサと大きな音をさせながら畑に下り

て出まして、隔たりも次第に少なく、今は十間にも足らぬ位になりました、今や火蓋を切らうと思ふ刹那、同行者の一人が他の制止の手振り笑可しいとして、一寸クツクツやりましたと思ふや否、野猪は非常なる速度で忽ち雲霞と消えて、跡をも見せませぬでした。其聽覺の鋭い事非常なものだと申します。

五、是に引き換へて眼は 前にも申た通り輿眼の細眼で、其視力は弱いので在ります。鼻の眼は強過ぎて却て晝間は見えませぬ。其他鳩の眼など、一般に鳥の眼は視力強い事、實に想像の外で在ります。一例を申せば百舌鳥などが高い梢に止まりて地上の昆蟲殊にケラなどは土と同色にて、容易に見分けのつかね様なものでも、能く見出して一文字に飛び下り引き摺みて飛び去るので在ります。野猪などは其反對で在ります。次ぎに彼れが

山なぞを荒す事に就て述べます
樹皮の中に棲んで居る、昆蟲の幼蟲などを捕る爲

めに、其樹の瘤様になつた所を破碎する。又樹の根を掘り起す等の有様は恐ろしいもので在ます是

は
一、彼の頭 が前にも述べた通り長い尖つた楔形をして居ると、是れに長く突き出たる

二、鼻 には特別に其先端に一ツの吻骨（前の圖參照）が在まして、是れが鼻孔の中に横はり、爲めに鼻は土を掘り岩を起すに都合よく、又非常に強い力が在ます。

三、猪牙 は有名なもので、形こそ象牙などに比す可くも在ませんが、其力其切れ味は非常なもので、實際是れを以て紙などを裁つに容易で在ます。或人は樹枝などをスパリスバリと切る事が出来るとも謂つて居ます。兎に角能く切れるのは野

猪の唯一の武器で在ます、此牙と彼鼻とで、人を跳ね飛ばし、獵犬なども誤つて是れに引懸けられると、其腹などが小刀で紙を切るよりも容易に切り割かれて、内臓が飛出し

見るも哀に絶息する事が在るそうで在ます。彼れは此牙を常に岩石などで研ぎ澄まして、上唇の内蔵して居ますが、一朝敵を迎ふ時は忽ち露出して、是れに全身の力を籠めるので在ますから恐ろしい。

象牙は上顎から生じて上に曲つて居ますが、野猪のは下顎から生じたのが大きく（前圖）て、上顎のは小さいので在ますが、是れも圖の通り、伸びると上に向ひます。是れで見ますと猪牙は徹頭徹尾武器と思はれます、咀嚼の器械では在ませぬ。

四、昆蟲などを捕る爲め 樹の根を掘り起すのも此牙で在ます。ひどく荒されると樹木が其爲めに枯れるのが出来て、山林家は意外の害を被るの

で在ます。又鼻で以て、吾々の容易に動かす事さへ出来ない様な大きな岩石を、手球の様にコロコロと容易く押し轉がして、其下の昆蟲蚯蚓などを捕つて食べます。尤も是等の力は彼れの肥太なる

五、體軀の筋力 が基をなす事勿論で在ります。如何なる武器も瘦せた體に着いて居ては、偉大の働きは爲し難いもので在ります。

六、首も短く太く 押しの強ひ事を顯はして居ます。然らば首の尤も長い獸類たる、麒麟では如何んな働きをするかと申事は、一寸聯想の起りさうな事で在りますが、亦是れには長ければ長い様な働きをするもので、彼れは此長い首で敵を打ます其れは横振りに鞭を振る様にして打ます。其力が非常に強いので、流石の獅子でさへ此一撃には恐怖するさうで在ります次ぎに

野猪の敵は何か

と申すと狼も近時は餘程少なくなりましてし、歐洲などの様に大きな山猫も居ないので在りますから、今では彼れの唯一の敵は人間で在ませう。

一、人間に對して

野猪は常に逃げるので在ります。が銃丸でも浴びせかけられ、一度負傷せる所謂手負猪となれば、猛烈とも猛烈とも實に狂猛

で在ります。斯うなると前にも述べた猪牙を以て、人と言はず犬と言はず、當るを幸ひ引き懸け跳ね飛ばし、蹴飛ばすので在ります。

二、彼れの顎は自由に動くので此牙を實に器用に使ふ事が出來ます。其上に體軀の力を加へて下から、上に匙ひ上げる様にするので在ります又

人間に對しての利害

野猪は夕方になりますと、己れの棲所を出でて農園に來る事が在ります。殊に春夏の候に甚しい。イモ、ダイコン、マメ、類をも食するので在ります。此場合野猪は己れの食するだけを、掘るとか喫るとかする計りでなく、無暗に荒し廻るので害は割合に大きくなります。徳島地方で一種の盆躍りが在ります此拍子取りに

篠山通れば篠ばかり 猪豆食てホーイホーイ

と申すのが記憶に残つて居ります。是れは其棲所や食物などを言表はして居ります。實際徳島の山地には野猪は多いので山畑(山の中を開墾して作

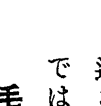
りたるもので山の谷間に少づゝ(ある)などで野猪の出る事を知る、と申のは其足跡や、糞で鑑定するので在ます實に

初雪や狎の足跡こぼれ梅

で二の字を踏出すは下駄の跡、狎のは梅花の零れた様に見へます、が野猪の一寸形容が困難で、重ね八文字とでも申ますか、挿圖を御覽下さい。

そして足の骨格と御考へ合せ下さると判然します。兎に角是等の特徴で野猪の出る事が明かりますと、番小屋を作り夜番をするので在ます。番小屋では時々空鐵砲を鳴らします。又徳島では冬期になりますと

野猪の足跡



常に美味で、春になると臭氣が出来て不味くなりす。昔は随分澤山の野猪が群を成して田畑を荒したそうですが、今は餘程少なくなつた様で在ます。然し夜間山路を通りますと、ガサ／＼大きな音をさせて過ぎ行く事が在ます。私も山間の友人の所に遊んで、夜分是れに出會したのは度々で在ます。闇を縫ふて小牛の様なのが不意に眼前を過ると、餘り氣味の好いものでは在ませぬ。

毛革は固くて餘り賞用は

せられぬ様で在ますが、毛は刷毛を作るに用ひます。それから少しく猪狩の事を御話しますが、一月にも雲の畑御獵場で、連日の猪狩が在りまして新聞にも其模様が出て居りましたから、餘り長くは書きますまい。昔は陷阱を設けて捕へました、是れは猪道と申て、野猪は常に定まつた道を通ります。是れを考へて其途中に穴を掘り、上に枯枝や草などを

山かぶらと申て賣りに來ります(東京では山鯨)其れは脚の肉の着いたのを擔いで來ります。是れは偽物で無い證據、羊頭を掲げて狗肉は賣らぬので在ます。野猪の肉は冬期殊に嚴寒の候は非

りたるもので山の谷間に少づゝ(ある)などで野猪の出る事を知る、と申のは其足跡や、糞で鑑定するので在ます實に

置いて、明らぬ様にして置ますと、野猪が其中に
 陥り、飛出るには餘り深過ぎて困つて居る所を、
 竹槍(青竹を片削ぎに尖らしたものの所謂猪突き槍)
 で突き殺したので在ます。又猪道に地電火様の仕
 懸をした事も在ますが、是れを蹈迷ひたる旅人が
 懸つて死んだ事も在まして、實に危険極まるので
 固く禁じられて居ます。今は専ら鐵砲で打ち捕り
 ます。此銃丸は丸い經三四分位の鉛で在ます。山
 路を行ますと三四尺位の高さに、竹や木を集め
 それに草などを着けて、自然の枯野と見境のない
 様につつた、小さい獵垣様のものが在ます是れは
 猪垣と申して獵師の障礙で、獵師は猪途と推夫途
 (獵師途とも申細い人道)との、交叉點に猪の來
 るのを待ち受けて、打ち捕るので在ます。
 勢子や獵犬に獵立てられて、逃げ出したものが元
 來速力從等に勝つて居ますから、稍落ち延びると
 少し息休めに、トットツと緩くやつて參ります
 此所をか猪垣の隠からズドン一發打つので在ま

す。若い猪が群を成して來る場合には、獵師は注意
 して最後のものを打ます。若前のを打ますと右往
 左往に散亂して仕舞ますからで在ます此時誤つて
 銃丸が急所を外れて斃るゝに到らず、狂ひ出しま
 すと是れが即ち手負猪實に危険極まるもので、向
 つては逆もたまりません。唯遠巻きに見失はぬ様
 にして、其疲れを待つて打捕るので在ります。然
 し獵者の數の少ない場合には、其儘に見逃がして
 仕舞ふ事が出來ます。斯様なのが山中に徘徊しま
 すと、恐ろしいもので人に逃げるどころでなく、却
 て向つて來りますから何れも外出を警戒します。
 猪狩は冬期に致します。是れは肉の美味なる計り
 でなく、冬枯の野山見渡すに便利だからで在ます。
 寒風凜として轉た悽慘を極むる折、殊にも雪中の
 猪狩などは一層勇壯なもので在ます。獵犬が猪を
 見付け出ますと、一種悲愴痛快なる聲で吠え立て
 勢子の「さゝら」打つ音、叫聲と相和して山彦に響
 き渡る、と思ふと天地を貫く銃聲點々其間に加は

り、遂には數十貫の山幸の得物は、その四足を縛られ人の肩に擔はるゝ、マア一種の戦場で在ます。最後に付加へて御話しますのは

豚の祖先は野猪で在ますと申事は其外形を見ても直ちに會得の出来るので在ます。豚には東洋種と、西洋種と在りまして、我國の豚の多くは前者に屬します。脚は短くて耳が立つて居る、原産地はジャワ、スマトラ、邊り、内地産の野猪とは違ひます、動物園の臺灣産の野猪も、種類は違ひますか稍是れに近いので在ます。後者の原種は、歐洲の沼澤に棲む種類で、前に申述べた五十六七貫目に達するものを、祖先にしたので在ますから、非常に肥大なる豚で在りまして、近頃は我國にも澤山輸入して居ます。耳殻は垂れて脚は割合に長いので在ます。

豚は古い家畜で、支那に飼養し初めたのは四千八百年前、埃及では三千五百年前、と申ます然し歐洲では千餘年前に、漸く飼養し初めたそうで在ます所が

我國では支那より琉球に輸入したのが二百餘年前其から薩摩大隅に傳はつのは僅かに百年計以前の

事で、各地に傳播したのは遂に降て維新前後と思ひます。

初め野猪を飼養し初めた人は、其肉の美味なると量の多い事に着目したのでも在ませうが、彼れ食物も大に因を爲して居ると思ひます。祖先の野猪が混食で在る上に、飼養するに従つて殆ど何でも、死石を除くの外は食する。汚物は勿論、氣味の悪い御話ですが、我兒の死骸までも食べるので在ます。

豚は肉を採る爲めに飼養するので、其飼養上の淘汰から、次第次第に肥大なるものを得る様になつたので在ります。此後でも倍々選種に注意すれば良種を作り出す事が出来ませう。

豚は感覺の鈍いもので、私の子供の時隣屋敷に飼つて置いたのを見ましたが、背上に鳥が止まつて豚は居ても、平氣で遊んで居るのを見ました。是位ですから寒熱共に耐え得るので、何れの地方でも飼養する事が出来ませう。

養豚事業は近時頗る盛んで、其専門書も澤山に在る様で御座いますから、此語はもう是れで御仕舞に致ませう。

保育の實際

△保育座右の銘

静岡市静岡幼稚園 宇式 かん

静岡幼稚園では、毎月の保育談話會毎に、左の事項を讀むこととして居らるゝそであります。願つて御送りを頂いて掲げること致しました。他の幼稚園でも斯う云ふ類の御實行がありましたら、どうぞ御知らせを願ひます。(編者)

幼児保育の實際に當り必要なる事項

- 一、先づ幼児の性質及び體格を知り序で其家庭を知られよ
- 一、言語は明瞭に口數少なく動作にて示されよ
- 一、緩嚴の度に注意し正しき態度を取られよ
- 一、禁止の言葉避けられよ
- 一、成可く消極的を避け積極的を取られよ
- 一、幼児は反對性を有するを知られよ
- 一、幼児との約束を違ふるな
- 一、幼児たりとも人壹人なり人格を尊ばれよ

- 一、幼児は爲す如くには爲すものなれど云ふやうにはせぬものなるを知られよ
- 一、幼児悪しとも直に幼児悪しと思はず先自らを反省せられよ
- 一、自身の子弟妹の愛情を以て幼児を取扱はれよ
- 一、室内保育より室外保育を重せられよ
- 一、心靜かに敏速なれ

△山國の幼稚園

長野高等女學校 附屬幼稚園 勝村 春枝

當幼稚園へ入園しまして、最も目に立つのは、身體の健康になる事と、氣の強くなる事とで御座います。此の點は父兄も大層悦んで居られます。新任せられた女學校の先生方はこの話を御聞きになりますと、いつも「まあ」と驚かれますが、私は常に「かくして信州人の氣象を養成するのです」と申して居ります。

園の、すぐ裏から山で御座いますから、春秋の暑からず寒からぬ好時節には、始終山遊び許りで御座います。

辨當もちで出かけます時の子供の喜びは、一通りでは御座いませぬ、皆さまが御覧になれば、随分太膽な亂暴なやり方だと、お驚ろきになる方もあらうと存じます。

幼児の隨意遊戯は、其の土地の風俗習慣時候等によりて、それ／＼差異のある事とぞんじますから信州長野における我が幼稚園児での、一年間の遊び方を御紹介いたし、御批正を仰ぎ度いとぞんじます。

春

四月になりますと、さすがに、雲深き信州の空も、だん／＼、春めいて来て、外遊も出来まますので、枯草の間をさがしては、もち草をつみ、新入兒をつれては砂場で遊びます。

砂場では何をやるかと申しますと、大抵山に川、

家などで御座いますが、山といへばすぐ富士山に淺間山、川は犀川千曲川、家は善光寺の御堂で御座います。一體に善光寺さまが、どの位、幼児の頭に深くきざまれて居るかわかりません、どこへ行きましたも、あ、御堂の屋根が見える御堂が見える」と云つて喜んで居ります。

夏

世はだん／＼夏めいて、蟬のこえにやう／＼暑さを知る頃となりますれば、幼児のつかれも早いので、時々室に入れたり外に出したりいたします。こゝには烏エンドーといふ豌豆のやうな實がありますので、それをとつては笛をこしらへて居ります。但し夏は外遊よりは、重に室内や廊下で遊ばせることが多くあります。

秋

九月十月の頃は、丁度時候のよろしい時で御座いますから、幼児等は、毎日、外に出て餘念もなく、蜻蛉やバッタ等を捕へて遊んで居ります、女兒は

重に裏の畔道でかもじをとつて遊びます。又さ、
 やかなる、谷川の邊に行つては、蟹をとらへ、山
 に登つては、葺をとり、櫟の實を拾ふなど、随分
 愉快におもしろく遊びます。十月半ば頃に、一里
 内外の所に遠足をいたします。

冬

かくて秋もすぎ、梢に時ならぬ花の咲く頃となり
 ますと、もう少しも外へ出る事は出来ません。十
 一月の末から、翌年三月迄は、外遊は殆ど出来な
 いので御座います。幸に、一間半に二十間の長廊
 下がありますので、旗取りに、かけつこに、汽車
 遊び、戦ごとと、自由自在にはなまわつて居りま
 す。早とりと申しまして、活人畫のまねのやうな
 活動寫眞のやうなものもいたします。羽子や風船
 もかし興へます。戴囊や御手玉も持たせませす。そ
 して室内に大黒板をそなへ付ておきまして、自由
 に書かせます。火鉢をかこみては談話會もいたし
 ます。

雪は大抵一尺内外で御座いますが、澤山降りまし
 た時には、雪だるまをこしらへましたり、雪なげ
 をしたり、又は雪の中には入つて飛び歩きます。
 雪なげのねらひは、いつも、袴の邊ときめておき
 ますので、其れがための危険は、一度も御座いま
 せんでした。私どもの懐には、始終伴創膏や繻帶
 がは入つて居りますが、いつも子供のお供をする
 許りでお座います。怪我は却つて安全な場所に有
 り勝ちのやうであると思はれます。
 信州人は、一體に活潑で、言語等もさつぱりして
 居ります。従つて子供達も過ぎる位の元氣があり、
 随分、亂暴な動作をする時も御座いますが、總じ
 て良家庭の子供が参りますので、もてあますと
 云ふやうなことは御座いません。

四〇

うなゐ子が心を野邊にふく笛は

思ふふしなきすさびとぞ聞く

(足代弘訓)

△強い子弱い子

赤坂區早坂
幼稚園 松 田 清

七歳の男児で實に手にあまるのがありました。性質伶俐上級の幼児を自分一人でうごかしてると云つてもよい位我まゝのしほうだいで、まるで同情とか謙讓とかの徳をかいてゐます。假令ばお角力をすれば他児がわざとまけてやらねば後でいぢめると云ふ風、保育者がそれはいけませんと制すれば、きいたふりしては居ても、少しの効能もありません。甚しきは、會集の時自分のうたひたかない唱歌には、皆に見える様に自分の口に手の指をあてる。そして、保育者がどんな顔をして居てもピタとうたふのを止める。これには全くもてあまして終ひました。以前には大層お互の制裁の強かつた児供達も、この児には全く盲従して、終りにはへつらふ兒さへ出來てきました。或る時は別室にまねいて叱つたり、或る時は多勢の他児に、

各自自重心を持つてへつらはぬ様にせよと話し會集其他指導遊戯の時など、殊更に其の兒を後にして、なるべく勢力を持たせぬ工風をしましたが更に効ありません。處が園長が或る日、會集の時如何しても先生の命を守らず善くならぬ御子様を明朝こゝでおしをきを致します」と云ひ渡しました。それが案外に其の子に効を奏して、一日くと謹んで、今日でも矢張り勢力を持つていますがさきの日の如き悪い事は致さない様になりました。五歳の男児、これはまた内氣で、臆病で、毎日登園しても、自由遊戯(外遊)の時は何もいたしません、他兒の遊びを見やうともいたしません。園に限らず室庭以外に一步をふみいだすともう何もかも不愉快で居るらしいのです。そして其不平を歸宅後發して實にだゝを云ふ事甚しいとの事でした。そこで此の子には第一着に園を愉快なる處とせねばならぬと思ひまして、萬事に元氣をつけ

てやりました。それこそおべんとうの箸の上げおろしにも元氣をつけました。第二に友を作つて進ようと思ひました處が、どうもこんな元氣なき内氣な兒は他兒がきらひまして誰一人相手になりません。これは困つたと、それからはこの兒供を他兒に注意せしめようと、何か皆に話す時は必ず其の兒の名前を云つて話柄としました。又積木などを皆にくばる用を、必ずこの兒と、もう一人すばしつこい元氣のよい兒とにたのみました。ぐずくとふしめ勝ちに運ぶのを後からホイ〜追ひ立てるやうにして、時には手もひきました。これらの結果か如何か、此頃は大分動作が元氣づいて、他兒もよく氣をつけて遊ばせますので、竹の先に、ハンケチをむすびつけて旗を作り、頭にはちまきなどして走りまわり、又は他兒の遊びに笑を催す様になりました。家庭ではいまだ氣が付く程の變りはないようですが、他に出ての勇氣はだんくつくでありませうと、實に楽しみにして居ります。

△△△△△△△△△△ 新入園兒の取扱ひ方

を何ひ度ひと思ひます。新入園の幼兒をやさしく巧に取扱つて幼稚園に全く慣れさせるまでには、多くの苦勞を要することでありませう。今や丁度その時期に近づいて居りますし、之れまでの皆さんの御實驗中、御成功談なり、又失禮ながら御失敗談なり、いづれも理窟や議論ではとても解決の出來ぬ此の問題研究の爲に、心得て置く必要のある貴い御實驗をお惜みなく澤山御發表願ひ度いのであります。締切は二月十日。

●それから、右と矢張り同じ趣旨で、前號から

△△△△△△△△△△ 保育の實際

の項を設けました。つまり皆さんの日々保育の實際の間に絶えずなく起つてくる出來事や、御感想や、いろ／＼の御工夫や、慣れては御自身夫れ程にもお思ひにならぬ事の中に、他の人には珍らしい大に參考になることが澤山ある。それを會員同志互に惜まず知らせ合ふといふ目的であります。こういふことが相互の爲に、どの位有益であるかは申すまでもないことと思ひます。それも、一つのまとまつた論文にでも書き上げるといふことはお忙しひ慮度々も願へますまいが、いはゞ小さい箇々の御實驗を、どんなことでもそのまゝ何はせて頂けば、それが結構なのであります。之れには勿論締切といふものはなし。いつでもお心づきの度毎にやさしい言文一致で、ふだんのお話のまゝを書いて送つて頂き度いのであります。もし又保育の實際に關し御疑問などがあつた場合、斯うして皆で研究すれば、良き解決を得られることと思ひます。

机邊だより

倉橋惣三

○心理學の參考書に就て

心理學の研究に、如何なる書物を読んだが適當かといふことは、會員方から屢々受ける質問であります、依つて、茲にざつと乍らお答へをして置かうと思ひます。但し心理學に關係ある邦語出版物も數に於て随分多いことでありますから、其の一一々に就て綿密な撰擇といふことは容易でありません。又それまで嚴格な意味に於ての紹介をする譯では全くありませんので、只思ひついたまゝを少し許り擧げるに過ぎません。それも亦一般の讀者の方の御參考の爲で、何も學問的に其の書の價値をどうこうといふのではないことは、明かにお断り致して置きます。

先づ、どなたにでも御勧めしたいのは、文學士速水瀧氏著「心理學」(博文館、並)であります。帝國百

科全書中の一編となつて居りますから、頁數も三百頁許り、定價も極く廉になつて居りますが、内容は獨逸流の構成學風と米國流の機能學風と穩健に融和し、文章も明瞭簡潔、初學の方が新らしい心理學の一般知識を得らるゝに便なると共に、多少高い標準から言つても大に有益な著述であります、殊に眞面目に心理學の一般知識を得られようとなさる方々は、徒に頁數の多い大冊子を読まるよりも、斯かる簡潔な、しかも含蓄の多い書物を熟讀研究せらるゝが利益だと思ひます。

次に、若し速水氏の著を読んで、まだ抽象的に感ぜらるゝ方は、高島平三郎氏著「應用心理講話」(博文館、定價)を御覽になつたらよいと思ひます。著者の熟練なる説明は、理路干燥になり易い心理學を通俗に解し易き實例を以て、興味多く説述せられてあります。それから、速水氏の著から、もう少し理論的に立入らうとなさる方は、文學博士元良勇次郎氏著「心理學綱要」(弘道館、定價壹圓)をお讀みにな

るが願でありませう。尤も、此の書も、講習會に於ける速記をもとゝされたもので、頁數も二百五十頁許り、敢て専門的の著述といふのではなく、一般心理學に就て平易に説かれてあるのでありますが、若し心理學を初めて讀むといふ方には、前二書よりは自然程度が高いかと思はれます。尙ほ本年は、同博士の大きい心理學書が多分出版される由に聞いて居りますが、それが出ましたらば、恐らく邦語心理學書中の最も程度の高いものと思ひます。それを研究する前に、此の「綱要」を讀んで置くことは順序でありませう。

それから、極く近頃の新しい出版を二三御紹介しますれば、文學士風見謙次郎氏譯「ロイス氏の心理學」(成美堂、定價)と、文學士上野陽一氏譯「機能主義心理學講義」(同文館、定價)とは昨年心理學界に於て歡迎すべき二好譯書であります。前書の原著者は米國ハーヴァード大學教授ジョサイア、ロイス氏、後書の原著者は同シカゴ大學教授エンジ

エル氏で、兩書とも、米國に於て出版された心理學書中有名なるものであります。兩書とも、從來我邦にある心理學書とは違つた流義の著述で、夫々特色のある書物であります。其の中ロイス氏の方は、氏が元來哲學者だけに、編述の立て方が獨特の見解を持つて居て、専門的にも餘程考へさせる處があります。エンジェル氏は所謂シカゴ派中の錚々たる人で、デユエー氏など、共に獨逸のグント氏一派の心理學説に對抗し、専ら精神を機能的に研究説明しようとするのであります。而して特に此兩書に就て御紹介する必要のあることは、兩書ともに其の研究の特色の自然の結果として、精神の發達の説明に重きを拂つてあることとあります。此の點は他の一般心理學書よりも、我會員諸君の興味をひく處と思ひます。

次に心理學内の各部門の著述は、其の數に於て未だ極く僅であります。變體心理の方面に於ては、文學博士福來友吉氏著「催眠心理學概論」(成美堂、

五十)が一般の方に便利でありませう。教育心理學の方面では、文學博士福來友吉氏譯「教育心理學講義」(定價一圓)は、ゼームス氏の名著を譯されたもので、此種の書中最も有益なるもの、一つであります。實驗心理學の方面では文學士野上俊夫氏同、上野陽一氏共著「實驗心理學講義」が最も新しいもので、難解に陥り易い此の學問が、極めて巧みに平易に述べてあります。尙ほ本年中には文學士大槻快尊氏の此の方面の一層程度の高い好著が出版さるゝ筈であります。序に一言して置きます

が、實驗心理學は心理學の新らしい研究法たるのみならず、近來教育の重要な一參考として大關係を有する様に益々なつて居るのであります、一般心理學の書を讀まるゝと共に此方面も必ず併せ窺ふことが必要であります。又此方面の讀者の好參考として、近頃東京文科大学心理學教室編纂「實驗心理寫真帖」(一圓六十錢)が出版されて居ります次に意志の研究としては文學士本庄精次氏著「意

志の心理と其教育法」(定價七十五錢)があり、感情の研究としては文學士源良英氏著「憤怒及復讐の心理的研究」(定價二圓三十錢)があります。前書が教育上重要な問題たるは勿論、後書にも兒童の憤怒及復讐に關する新研究があつて、教育保育上の參考となること少くありません。尙ほ心理學に關する

短編集としては文學博士元良勇次郎氏著「論文集」(一圓五十錢)及心理學通俗講話會編輯「心理學通俗講話」(不同、凡三四十錢)があります。最後に、皆さんに最も關係の近い兒童心理學の方面に移りますが、此方面には未だ之れといふ大著述を得ません。其中で一頭地を抜いて居るのは、矢張り元良、中島兩博士、速水、青木兩學士譯「青年期の研究」(定價二圓)であります。此書は米國スタンレー、ホール氏の大著述を抄譯したものであります。一般兒童心理學としては日田權一氏譯「兒童研究の原理」(定價一圓六十錢)を最もお勧めすべきであります。此の書は米國カークバトリック

氏の原著を譯したもので、特に専門的の著述といふではありませんが、児童心理學の大體に廣く行涉つて、手際よく種々の問題に觸れて居る度が特長であります。たゞ此の著者の本能といふ語が最廣い範圍にまで擴げられて居る處は、専門的には議論の起り得る點ではありませんが、邦語の児童心理學書としては恐らく最も實のあるものでありませう。次に高島平三郎氏著「児童心理講話」(堂二圓)は極く通俗的に大體を解り易く説いてあります。文學士松本孝次郎氏著「児童心理學」(博文館並)の初めの數章は児童研究の歴史及方法の概要を知るに於て邦語の著書中最便利であります。又同氏著「實際的児童學」(同文館)及び富永岩太郎氏著「児童心身の發達」(同文館)は、いづれも實際的教養上の參考を主として説いてあります。尙ほ五十嵐力氏著「児童研究」(金尾文淵堂)は米國テイラー氏の著によつたもの、多市松氏著「子どもの研究」(實業日本社)は英國サリー氏の著(Children's Way) (定價七十錢)は英國サリー氏の著(Children's Way)

によつたものでてります。それから桑田孔治氏譯「児童心理學」(富山房發兌)は児童の四つの氣質に関するヘルキヒ氏の著を親切に譯されてあります。此他児童のことに就ては日本児童研究會發行「児童研究」(毎月一回)が醫學的其他的方面の研究と共に心理學研究の新しい參考を供して居ります。

○ピー、エス、ヒル氏

「幼稚園の唱歌」

去年十二月の「幼稚園評論」に、ヒル氏は米國に於ける幼稚園唱歌の發達の歴史を叙した末に、幼稚園に於ける音樂問題に關し、次の如き概論を試みて居る。

(一)幼稚園に於ける音樂使用の過度は慎むべきことだ。而して其の弊害は二つの結果にあらはれる。(イ)餘りに絶えず音樂が用ゐられて居ると、幼兒は、音樂に對する注意力を却つて失ふ様になる。遂にはピアノの響も、歌の聲も、無味單調にな

つて意識の水平下に下る。(ロ)音楽の多いことは幼児をして無意識的に興奮状態に絶えずあらしめる。

(二)幼稚園の唱歌は、詩として云つても、音楽として云つても、餘り長いのはいけない。子供の歌は子供の経験と子供の気分によつて理解されてこそ真に詩的なので、それが餘り多くの音楽的乃至文學的思想や情緒を含み過ぎて居るのでは、子供に適しない。概していへば、短い歌がいゝ。

(三)歌の中に、詩的乃至音樂的思想及感情が、適當に繰りかへされて居ることが必要である。多くの歌には此の繰りかへしが缺けて居る。

(四)音程、拍子、ともに餘り六かし過ぎるのは子供に適しない。

(五)和聲、伴奏共に餘り複雑且高尚過ぎるのはいけない。子供の耳が要求もしない、従つて理解する能力もない程な、不必要な巧妙や複雑な調音などいらない。

(六)幼稚園用の唱歌としては、音がいゝとか、

調がいゝとかいふ方の價值よりも、活動的なこと、律的なこと、所作、遊戲を伴ひ易いことの方を尊重する。

(七)従つて、調音でも律でも、活動を伴ひ易い様なものを撰んで、運動よりもしんみり聞き惚られて仕舞ふ様なものは避けなければならぬ。

(八)唱へ方の、音楽としての正しい習慣をつけるといふことも必要ではあるが、それよりも、表出の自發性を重んじなければならぬ。

(九)幼児をして、其の自分の思想なり感情なりを、短い詩的音樂的歌词に發表し得る様に、其の能力を導いてやる必要がある。

(十)正しい音階や調や律を、良く聽いて、よく理解する様に子供等に學ばさなければいかん。只無暗に歌ふばかりのはいかん。

(十一)自發的だといふので、無暗に聲を張り上げて歌はせるのも、節をきれいに歌ひ分ける爲だとして、矢鏗低い聲で歌はせるのも、兩方とも飛んだ大間違ひである。(了)

雜錄

●本會玩具研究部 從來本會内に設けられたる同部は都合に因り舊冬限り中止することとせり。爾今同部に關することは一切同部員たりし會員高市次郎和田實の兩氏に於て處理することとせり。

尤も同部に於て從來行ひ來れる模範玩具配布は會員希望に因りフレイベル館に於て依然繼續して之を引受くる由

●本會常會 本月開會の筈なる本會常會は小石川區竹早町なる東京府女子師範學校附屬幼稚園に於て開催することとせり。當日は東京女子高等師範學校教授文學士小林照朗氏の「社會と兒童」と題する講演ある筈なり。知友御誘ひ合され大に御來會を望む。

●日本玩具研究會 玩具研究に熱心なる本會々員高市次郎氏は文學士倉橋惣三、同河野清麿兩氏の賛助を得て標題の如き獨立したる大研究會を興さんとて目下計畫中なり。之に就いては朝野多數の名士の有力なる援助尠ならず、且専門家の入會

を希望するもの多ければ成立の上は教育上並に貿易上に貢獻すること大なるものあらん。

新刊紹介

●眞澄の鏡井上通女

讚州丸龜の人井上通女の傳記にして女子の好讀物なり。女史は學和漢に通じ詩歌を能くし兼ねて書畫に巧みなり。而も家事裁縫等の女工に掛けては決して人後に落つることなく行ひ澄せり。此書編を分つこと、先づ處女としての通女を明にし、夫より待女としての通女妻としての通女、老母としての通女を叙し、更に其學殖に就いて論じたるものにして能く通女の眞價を發揮せり。此書を讀むもの、誰か通女の才氣と學殖と其精勤とに驚かざるものあらん。敢へて讀者の一讀を勸む。但し微瑕とも云ふ可きは著者が餘りに通女を崇拜したる跡の折々章句の間にはの見ゆることにして、讀者の時に或は反感を起すことなきかを恐る。(東京市神田區表神保町一、同文館發行、定價金九十錢)



無 上 の 光 榮

賜 東宮殿下御愛用
各宮殿下御愛用

小野鷺堂先生御常用
玉木愛石先生御常用

更に十二月十七日畏多くも

皇孫殿下より御買上の恩命を蒙る



(一名硯いらすの筆)

西洋の萬年ペンを純日本式に改良せし物にして價の廉と實益の點に於て將に毛筆界の革命兒たる充分の自負心を以て發賣せる品にして一度墨汁を注げば端書一千枚の連寫に堪へ毛先は普通毛筆の廿倍を保ちたとへ切れても誰にも取換自由

法文
便法

振替口座へ金五拾貳錢拂込み本誌讀者の旨御附記あれば送料當方持にて御
送品申上候

東京神田郵便局前

電話本局 三〇七〇番
振替 一〇四五三番

東洋萬年筆發賣本舖

萬年商會

墨汁 十五錢	定價 五十七圓 七十五錢	替穂 十錢
送料 四錢	二十五錢	十五錢

會 長 文 學 博 士 元 良 勇 次 郎

兒 童 研 究

社會の改善も、人類の向上も、文明の進歩も、國家の發展も、詮じつむれば、ただ善良の兒童を得るにありと言ふことになる。兒童を愛する國は興り、兒童を顧みざる國は亡ぶ、これは千古萬古變ることなき箴言である。兒童の研究は、ひとり教育家や、醫家に一任して置くべきものではない。世の父兄自ら研究すべき筈のものである。兒童の研究は即ち我を愛し、家を愛し、國を愛し、人類を愛することになる、兒童のために最善を謀らざる家庭は、決して幸福を望むことは出來ぬ、我儕は何人も兒童の研究に興味を持たれんことを切に希望してやまないのである。

○會費半箇年分金九十錢 同一箇年分一圓八十錢○兒童研究は毎月一回二十五日發行○會員には無代頒布○見本金十五錢

東京市本郷區千駄木町五十番地

日 本 兒 童 研 究 會



標商録登
MORIMYO
 妙守
 妙守
 振

最も光榮ある風邪血の道藥

●油斷大敵、風邪は萬病の本風邪たんせき婦人

血の道逆上腰冷寒さ暑さあたり、頭痛、めま

ひ、氣のふさぐには守妙に限る

●模偽物多し御求の節は必ず守妙即ち守田妙振

り出しと御名指を乞ふ

定價
 一帖入 金五拾五錢
 二帖入 金廿五錢
 六帖入 金五十五錢
 十二帖函入 錢

東京上野池之端仲町廿七番地

寶丹 本舖 守田 治兵衛

●全國各藥店にて販賣す

東 京 九 段 中 坂 上
フ レ ー 一 ベ ル 館

營 業 課 目

幼稚園用恩物	幼稚園用材料	幼稚園用机腰掛	幼稚園用運動具	幼稚園用遊戲具	幼稚園用繪畫類	幼稚園用玩具類	幼稚園用書籍類	幼稚園用諸表簿類	家庭教育資料	學校用品類
--------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	----------	--------	-------

御 一 報 次 第 定 價 表 進 呈

◎新案シーソー 定價 四圓五十錢
送費 遠近によりて異なる

室内或は室外に持運びの出来る最も輕便なるシーソーにして向ひ合つて腰を掛け自然に上下す市内多くの幼稚園に試みて好評嘖々全部鋼鐵製螺旋止め

◎まはり人形

定價 四十錢
送費 十二錢

一、製法、木製の盆形に十三ヶの凹所と八ヶの半環を付したる盤一ヶとセルロイド製にして斜面を轉る面白き人形一ヶよりなる

一、使用法 凹所に人形を沿らしめずして順次半環に人形を掛らしむるを目的とす

一、教育的價值

手指の練習と視覺の調節とを旨としたる練習的玩具にして併せて沈着努力の氣風を養ふ保存、興味、教育的價值の上に於て幼稚園には最も適したる玩具たるを信す

明治四十四年二月五日發行

編輯兼 東京市小石川區竹早町三四
發行者 和田持直

印刷者

東京市本所區番場町四番地 守岡功

東京市本郷區元町二丁目六十六番地 發行所 フレーベル會